

4-1-18 看護部(保育士を含める)

1. 概要

平成 16 年度は、看護師（助産師含む）439 名、保育士 6 名、看護助手 17 名でスタートした。4 月 1 日付人事は、看護師長 1 名の異動と看護師（助産師含む）62 名（内新卒者 44 名）を新規採用した。

4 月より 4 階西病棟の新生児集中治療加算ベッドが 12 床から 15 床に増床となり 7 名を増員し、夜勤を 6 人から 7 人体制とした。看護師 7 名は院内努力で配置し、パートで代替することとした。しかし、パート採用は応募が少なく 3～4 名の採用で経過した。

また、診療報酬改定により、小児入院医療管理料 1 の該当病棟が 1 箇所（7 西）から 6 箇所（小児病棟 6 病棟全て）に拡大した。そのため、保育士の配置も 7 階東西、8 階東西、9 階東西の小児病棟に 1 名ずつの配置とし、プレールームが 30 m²となるよう整備した。

設立 3 年目となり、診療内容が充実・拡大してきたことに伴って各部署の看護業務は量・密度ともに高くなってきた。勤務体制、看護体制など再調整が必要となってきた。

そこで、看護部年度目標は、1．適切な看護サービスの提供とシステムの見直し、2．看護スタッフ教育及び学生指導の充実、3．病院経営への参画、4．安全な看護の提供、5．業務の安定化のための人事管理（途中退職防止）6．情報発信（学会発表、ホームページ）を掲げ精力的に取り組んできた。

看護提供システム見直しでは、3 病棟（11 東、10 東、7 東）が、早出、遅出を導入し勤務形態を変更した。また、4 西病棟が看護方式を変更し、固定チーム・受け持ち制とした。設立時整備した、看護手順を委員会を中心として全面的に見直し、現状に即したものに改定した。

看護職員の院内教育は、平成 15 年度に策定した専門看護研修（基礎編、応用編）を開始した。専門看護研修は、3 年間で 1 クール終了するプログラムとなっており、成育看護全般の理解を深めることを目的としている。魅力ある研修とし、成育看護の担い手を育成することが看護部の発展につながるものと考え取り組んでいる。

政策医療「成育医療」研修は、対象がこれまで医師のみであったが今年度から看護師も対象となるよう要望し実現した。11 月 17 日～19 日の 3 日間で、全国から成育医療の機能を持つ国立病院機構の看護師・助産師 20 名の参加があった。

看護研究は、研究所の成育政策科学研究部の伊藤龍子先生、副看護師長阿部さとみ、臨床教員西海真理の指導により、院内 16 題、院外 13 題をまとめ発表した。設立 3 年目でようやく、成育ネットの研修や研究発表を通し情報発信できるようになった。

感染管理認定看護師に 1 名合格し認定者 2 名となった。また、治験コーディネーター認定に 1 名合格した。

平成 16 年度は、水害や地震など天災の多い年であった。新潟中越地震では、実家が被害にあった職員もあり痛ましいできごとであった。被災地（川口町）に、病院から 6 名編成（内、看護師 2 名）の救護班が 7 班派遣された。急遽の派遣だったため大変だったと思われるが、余震の続く中、1 班につき 3 泊 4 日適切な救護活動が展開された。病院として、地震、火事などに備えて災害マニュアルを早急に作成する必要がある。また、平成 17 年 3 月に院内の自家発電設備の点検が行われた。開院以来初めての点検であるため 10 階東病棟、外来 2 階に限局し点検が行われた。外来診療、手術を中止して万全の体制のもと実施されたが、 Consent などの表示と実際が一致していないなど不具合も発見できた。危機管理体制の整備と訓練が急がれるところである。

安全管理（事故・感染防止）や看護職員に対する患者さんからのご意見は、看護師長会で共有し具体的に改善に取り組んだ。看護部として、まだまだやらなければならないことは山積しているが、看護の基本を大切にひとつひとつ着実に取り組んでいきたいと考えている。

2. 研究活動

2.1 院内研究

- 1) 平塚未来：乳幼児の抑制を最小限にした安全なカテーテルの固定及び抑制の検討、
2005.2.1
- 2) 伊藤 綾：高度な医療的ケアを必要とする児を持つ家族の気持ちの変化、2005.2.1
- 3) 久保亜紀子：乳幼児における中心静脈カテーテルのルートトラブル防止に関する検討、
2005.2.1
- 4) 高橋清華：女性総合外来における看護師の役割、2005.2.1
- 5) 川嶋由香：超低出生児に起こりやすい皮膚トラブルの検討、2005.2.15
- 6) 小田由樹子：産褥 2 日目の足浴が及ぼす下肢の浮腫の変化について、2005.2.15
- 7) 村上裕子：キャリアオーバー患者の家族に意志決定支援、2005.2.15
- 8) 伊藤可奈子：機能的脊髄後根切除術後におけるリハビリテーションの重要性の認識向上に
向けて、2005.2.15
- 9) 長内麻生：長期入院を強いられた学童児に日常生活確立までの援助、2005.2.15
- 10) 大藪由紀：在宅自己導尿患児の自立に向けた看護の検討、2005.2.15
- 11) 佐藤友香：早出・遅出勤務導入に関する意識調査、2005.3.1
- 12) 相原未央：11 西外来での業務量調査、2005.3.1
- 13) 宮腰千鶴：24 時間面会に関する実態調査、2005.3.1
- 14) 田中英理：脊髄疾患術後により腰部に創部がある患者の創部管理、2005.3.1
- 15) 野坂いづみ：ハイリスク新生児を持つ母親の母乳支援を考える、2005.3.1
- 16) 上田明子：P I C Uにおける音環境の実態と減音対策の考察、2005.3.1

2.2 学会発表

- 1) 林 和美：保存期腎不全の子どもとその家族に対する継続看護、第 18 回日本 P D 研究会、
2004.9.17
- 2) 千賀智子：救急センターを受診した乳幼児の事故の実態調査、第 18 回日本小児医学会、
2004.6.19
- 3) 石井 希：救急センターにおける救急搬送、第 6 回日本救急看護学会、2004.10.23
- 4) 舟崎知恵：慢性疾患を持つ青年の希望の意味と源、第 14 回小児看護学会、2004.7.16
- 5) 松下容子：脳性麻痺で日常生活全介助初産婦の育児支援方向、第 45 回日本母性衛生学会、
2004.5.23
- 6) 畠山明美：クリティカルパスを応用した患者教育ツールの開発、第 41 回小児アレルギー
学会、2004.11.27
- 7) 中村瑞穂：救急センターを受診した乳幼児の事故の実態調査、第 2 回国立病院看護研究学
会、2004.12.5
- 8) 薄葉典子：チーム医療における看護師と保育士の連携、第 8 回日本医療保育学会、
2004.8.26
- 9) 小山朋子：生産・死産が硬膜外無痛分娩の選択に及ぼす影響の検討、第 45 回日本母性衛
生学会、2004.5.23
- 10) 森 千春：中学生におけるボディイメージとダイエットの関連性、第 45 回日本母性衛
生学会、2004.5.23
- 11) 堀内利恵：接合双胎児の分娩から全経過にわたる看護、第 14 回日本新生児看護学会、
2004.12.4
- 12) 阿部聖世：脳性麻痺で日常生活全介助初産婦の経膈分娩報告、第 45 回日本母性衛生学
会、2004.5.23

3. 研修

3.1 院外研修

1) 厚生労働省等

幹部看護師管理者研修 (): 2004.9.6 ~ 9.17 八代尚美

関東信越地区保健師助産師看護師等実習指導者講習会: 2004.10.13 ~ 12.9 目崎正子

医療安全対策研修会: 2005.1.14 ~ 1.15 吉岡明美

管理者研修会: 2005.1.26 ~ 1.27 須々木美奈

がん医療研修会: 2005.2.3 ~ 2.4 斎藤淳子

院内感染対策講習会: 2005.2.9 ~ 2.10 林 直美

2) 日本看護協会関係

実習指導者研修会: 2004.5.17 ~ 12.15 (1回 ~ 4回) 鈴木佳奈子・林幸子・山田由香

3) その他

WOC 看護研修 (国立看護大学校): 2004.6.21 ~ 6.25 福島加奈子

看護研究研修 (国立看護大学校): 2004.9.13 ~ 9.17 荒武亜紀

血液・造血器疾患研修会 (NHO 名古屋医療センター) 2004.11.4 ~ 11.15 竹内理恵

救急患者受け渡し訓練 (東京消防庁): 2004.11.29 上田明子

認定看護師「感染管理」フォローアップ研修 (国立看護大学校): 2004.12.14 島田知子・菅原美絵

認定看護師教育課程「がん化学療法認定看護」(国立看護大学校): 2004.10.7 ~ 2005.3.25 鈿持瞳

実習指導者講習会 (国立国際医療センター): 2004.12.6 ~ 2005.2.16 服部聡美・国仲明子・田原良美

保育士研修会 (NHO 下志津病院): 2005.1.11 岡本亜紀子・小林江利子

周産期医療関係者研修会 (日本赤十字社医療センター): 2005.2.18 ~ 2.19 森千春

第4回助産師教育指導講習会 (東京都): 2005.2.22 小山朋子

3.2 院内研修

研修会名	年月	内容	参加者数
新採用者オリエンテーション	平成16年4月	講義・演習・ビデオ	62名
対象の理解 ¹	平成16年5月	講義：各期における成長発達課題と必要な支援について(アレルギー科心理士：益子育代先生)	57名
リーダーシップ・メンバーシップ ¹	平成16年7月	講義：メンバーシップについて(須々木師長) 体験学習 グループワーク	57名
安全の判断 ¹	平成16年10月	講義：看護業務を安全に実施するためには(専任リスクマネージャー) グループワーク	56名
対象の理解 ² (1)	平成16年6月	患者・家族への関わり方について「事例検討」	38名
対象の理解 ² (2)	平成16年7月	講義：ケーススタディーの方法論を学ぶ (聖路加看護大学助手：木村千恵子先生)	38名
対象の理解 ² (2)	平成16年9月	ケーススタディー発表会 講評：聖路加看護大学助手：木村千恵子先生	39名
リーダーシップ・メンバーシップ ²	平成16年10月	体験学習「単方向コミュニケーションと双方向コミュニケーション」 グループワーク 講義：リーダーシップとメンバーシップ(須々木師長)	39名
安全の判断 ²	平成16年12月	講義：医療事故とインシデント(専任リスクマネージャー) グループワーク 病棟巡視	38名
対象の理解 ³	平成16年6月	講義：私が行っているこどもへの説明 グループワーク	45名
リーダーシップ ³	平成16年11月	体験学習：がんばれチーフゲーム 講義：行動からリーダーシップをめざせ(小沼副師長) グループワーク	45名
安全の判断 ³	平成17年1月	講義： 1. 看護業務の責任範囲 2. 保助看法の視点 3. 医療事故発生時の対応(専任リスクマネージャー)	44名
プリセプター研修	平成16年6月	グループワーク(3ヶ月目)	31名
プリセプター研修	平成17年1月	グループワーク(1年の振り返り)	30名
プリセプター事前研修	平成17年3月	講義： 1. プリセプターシップとは 2. プリセプターの役割 3. プリセプター活動の実際 4. 指導の評価と自己の振り返り	43名
中間管理者研修(師長・副師長)	平成16年11月	講義：病院機能評価の考え方 (前東京医療センター・看護部長 坂本恵美子先生)	56名
中間管理者研修(師長)	平成16年12月	グループワーク(病院機能評価について)	18名
リスクマネジメント研修	平成16年11月	講義：医療におけるリスクマネジメント(専任リスクマネージャー)	34名
リフレッシュ研修	平成16年10月	講義：小児看護の展望(兵庫県立大学看護学部長 片田範子先生)	116名
実務研修(管理初級)	平成16年12月	講義：マネージメントとは(吉田副看護部長)	41名
実務研修(実習指導者事前研修)	平成17年3月	講義： 1. 臨地実習の目的 2. 実習指導者の役割 3. 学生を迎えるためにあたっての心構え グループワーク	15名
専門研修(基礎)	平成16年7月	講義：人間の尊厳・生命倫理について (日本赤十字看護大学 筒井真優美先生)	149名
(成育生殖看護コース)	平成16年9月	講義： 遺伝子診療の現状(奥山虎之医長) 遺伝カウンセリングナースの役割と実践での協働(三原副看護師)	109名
(成育周産期看護コース)	平成16年10月	講義： 成育医療に求められる周産期医療とは(名取副院長) 成育医療に求められる周産期看護とは(阿部看護師長)	125名
(成育小児看護コース)	平成16年11月	講義： 小児の機能的発達と形態的発達の評価(西海副師長)	99名
(成育思春期看護コース)	平成17年1月	講義： 思春期の精神的発達の特徴(生田医長) 思春期看護(野口看護師長)	79名
(成育成人看護コース)	平成17年2月	講義：先天性疾患や慢性疾患をキャリアーした患者、家族への支援 (国立看護大学校 仁尾かおり先生)	
トピックス研修 ¹	平成16年7月	講義：救命の連鎖を築くために(清水医師)	144名
トピックス研修 ²	平成16年7月	講義：現代の子どもたちのいのちの認識とDeath Education (日本女子大学 中村博志先生)	111名

3.3 研修受け入れ

- 1) 4 東病棟：2004.6.1～2005.3.31 自治医科大学附属病院 看護師 7 名
- 2) 小児病棟：2004.9.27～2005.3.21 中国（上海）復旦大学附属小児病院 看護師 1 名

3.4 看護学生・助産学生実習受け入れ

- 1) 独立行政法人国立病院機構災害医療センター附属昭和の森看護学校
3 年生：（小児）2004.5.10～7.16 33 名
- 2) 独立行政法人国立病院機構東京医療センター附属東が丘看護助産学校
<看護学科>
2 年生：（母性）2004.12.13～2005.2.25 17 名
（小児）2004.12.13～2005.3.28 15 名
3 年生：（母性）2004.5.10～11.12 34 名
（小児）2004.5.17～11.26 40 名
<助産学科>
2004.7.5～12.28 65 名
- 3) 国立看護大学校
・政策医療看護学：2004.6.14～10.1 154 名
・小児看護学：2004.11.15～2005.3.28 105 名
・母性看護学：2004.11.15～2005.2.4 114 名
・助産学：2004.8.30～10.24 24 名

＊ 週当たり延べ人数

4. 社会的活動

4.1 講師派遣

- 1) 第 42 回秋田県院内感染対策協議会研修会
日時：2004.6.26
講師：島田知子（感染管理認定看護師）
- 2) 第 14 回日本小児看護学会（テーマセッション）
日時：2004.7.16～17
場所：宮崎県ワールドコンベンションセンター
講師：三浦せつ子、西海真理
- 3) 第 14 回日本小児看護学会（シンポジスト）
日時：2004.7.16～17
場所：宮崎県ワールドコンベンションセンター
講師：林真由美
- 4) 周産期医療研修会
日時：2004.11.17
場所：社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
講師：吉岡明美（専任リスクマネージャー）
- 5) 昭和の森看護学校講師
日時：2004.11.～12 月
場所：昭和の森看護学校
講師：丸山栄子、竹内恵里、早坂素子
- 6) 第 31 回日本小児臨床薬理学会

日時：2004.9.17

場所：静岡県静岡市池田 79-4

講師：清水裕子（治験コーディネーター）

7) 小児救急認定看護師研修会

日時：2004.11.22

場所：国立成育医療センター

講師：宮澤佳子（看護師長）

4.2 投稿

- 1) 渡邊久美子：「知って安心おしりまわりのトラブルと対処法」チャイルドヘルス、2004.11月号
- 2) 目崎正子：「帝王切開への新たな看護対応」ペリネイタルケア 2004.10月号
- 3) 五十嵐真代：「小児がん患者への家族への支援」がん看護ケアのストラテジ 2004.9月号
- 4) 吉田幸子：「小児看護実践に必要な倫理的配慮」小児看護臨時増刊、2004.8月号
- 5) 吉岡明美：「電子カルテを導入して」会報「とうきょう」2004.7月号
- 6) 小山陽子：「在宅に向けての援助」小児看護、2004.9月号
- 7) 加瀬由美子・清水裕子：「病気を持つこどもへのプリバレーション」中央法規出版 2004.9月号
- 8) 国見恵子：「オーダリングシステムの活用で薬剤事故を防止する」Neonatal Care 2004.12月号
- 9) 宮澤佳子・林幸子：「看護師が行う小児救急トリアージ」Emergency Nursing 2004.10月号
- 10) 薄葉典子：「心臓の修復ができない子どもさんをもたれた方に」心臓病児者の幸せのために、2004.11月号
- 11) 西海真理：「回復の見通しが立たず入院が長期化している子どもの家族へのケア」ナース専科、2004.11月号

5. 保育士の活動

5.1 概要

平成16年度は4月1日付で保育士6名、7～9階の小児6病棟の入院患児を対象に保育を提供した。今年度は「医療チームの一員として専門性を活かした保育の提供」を目標に業務、行事、物品、ホームページ、研修（自己学習）、見学・研修対応を担当し業務の充実を図っていった。

保育活動は年間行事を5回、昨年度からはじめた設定保育（ぼけっと保育）は制作や紙芝居・パネルシアターなど21回実施。日々の活動も季節感を取り入れ、病状及び成長発達にあわせた保育を行った。

保育業務では保育計画記録の立上げ、昨年度作成した保育記録テンプレートの改善、保育園内教育の実施に向け準備を始めた。また、今年度から勉強会を設け4回実施した。

5.2 保育士の活動

5.2.1 年間行事

- | | |
|-----|--------|
| 5月 | こいのぼり会 |
| 7月 | たなばた会 |
| 10月 | ハロウィン |
| 12月 | クリスマス会 |

3月 ひなまつり会

5.2.2 保育業務

4月 保育計画記録の書式作成

5月 保育研修

6月 保育ホームページ 更新

8月 保育計画記録を電子カルテに反映

9月 保育ホームページ 更新

11月 保育ホームページ 更新

12月 保育研修

1月 保育研修

保育ホームページ 更新

院内教育（案）作成

2月 成育保育マニュアル（平成16年度版）

3月 保育ホームページ 更新

保育研修

5.2.3 見学・研修受け入れ

平成16年度の見学者受け入れ保育対応3件。研修受け入れ1件。保育業務の説明と小児病棟の見学中心に行った。

5.2.4 研究活動

【投稿】

- 1、高橋みゆき：国立成育医療センターにおける保育内容の体系化と電子カルテへの保育記録記載への試み 医療と保育 2004 Vol.3

【院外発表】

- 1、加藤ゆみえ：保育記録システムの確立にむけて 第8回日本医療保育学会 2004.8.29

【院内発表】

- 1、高橋みゆき：成育保育活動紹介 成育ボランティア説明会 2004.10.28

【その他】

- 1、平 真由美：保育士奮闘記 成育すこやかジャーナル№19
- 2、小林江利子：国立成育医療センターにおける保育士の取り組み 成育メールマガジン第32号
- 3、加藤ゆみえ：保育士の取り組み～第8回日本医療保育学会を主催して～ 成育メールマガジン第35号
- 4、岡本亜紀子 他5名：手作り玩具「トイバイヤル」展 第8回日本医療保育学会 2004.8.28
- 5、岡本亜紀子：第8回日本医療保育学会を終えて 日本医療保育学会ニュースレター 26号 2004

5.2.5 研修

2004年8月28・29日 第8回日本医療保育学会

2004年10月23・24日 日本保育園保健学会

2004年11月7日 日本医療保育学会研修会全国研修会

2005年3月11日 日本医療保育学会研修会関東ブロック研修会

5.2.6 社会的活動

2004年8月28・29日 第8回日本医療保育学会 主催

2004年8月28・29日 第8回日本医療保育学会 ワークショップ座長 高橋みゆき